

## 選択制講義② テーマ2

### 「地域資料の可能性は無限大 デジタルアーカイブで地域活性！」

講師：瑞穂町企画部企画課長 宮坂 勝利

#### 1 デジタルアーカイブ構築の経緯

瑞穂町図書館がデジタルアーカイブの構築を始めたきっかけは、同じ建物内にあった郷土資料館の移転である。資料をデジタル化して共有することにより、移転後もサービスの一体性を維持できるのではないかと考え、平成27年度に構築を開始した。

瑞穂町には横田基地があり、米軍の兵士たちは、地域の人々との関係を維持するため、日本や地域について学ぶことを求められる。そこで、地域資料のデジタル画像を英訳テキストと合わせて提供することで、地域交流の活性化にもつながるコンテンツとした。

平成28年度には、「被写体認識基盤サービス」の活用により、郷土資料館内にある町域の航空写真大型パネル「バーズアイ瑞穂」にタブレット端末をかざすと、被写体と登録された形状パターンが照合され、該地点の情報がデータベースから呼び出される仕組みを構築した。

平成29年度には、このシステムを立体物に応用し、スマートフォン等を活用して、実物の文化財から名所の情報を閲覧できるアプリケーション「瑞穂町探検アプリ」を開発した。平成30年度は、「あなたの知らない世界」と称し、地域の新たな魅力を発掘する動画コンテンツの作成を進めている。

以上の構築に当たっては、単に資料をデジタル化するだけでなく、地域の特性と結びつけた独自性の高い事業とすることで、図書館振興財団や文化庁など、外部の助成金の獲得に成功した。

#### 2 地域資源の発掘

所蔵する資料をデジタル化して発信することで、さらに情報や資源が集まり、コレクションの拡充につながる。外部からの反応が見えることで、職員の側にも、資料を公開することの重要性が認識され、意識の変化が生まれてくる。デジタルアーカイブは、資料の保存と活用を両立する方法といえるのではないだろうか。

地域の資源は、図書館・資料館の所蔵品や文献資料に限らない。地域の住民が個人的に保管してきた音声や映像、その地域に特徴的な景観なども、デジタルアーカイブに登録することで、地域の資源として共有することができる。地域の潜在的な資源を発掘することは、行政こそが担うべき役割の一つである。

#### 3 地域資源の活用

共有された地域の資源は、様々な事業を通じて活用することで、さらに効用を高めていく。例えば、学校における「ふるさと学習みずほ学」の一環として、図書館・資料館の資料を積極的に活用した教育を実践している。縄文土器がテーマの授業では、瑞穂町で発掘された土器の実物を提示することで、テーマを身近に感じられるようにする。また、瑞穂町に関する画像資料を活用した紙芝居の創作では、地域についての生徒の関心を引き出すことができた。

資料を活用して刺激的な体験を仕掛け、その結果生まれてきた「もっと知りたい」という気持ちを受け止めていくことにより、事業はさらに広がりが増し、地域内の連携も深まっていく。

#### 4 結び—地域の知の拠点としての図書館・資料館とは

地域の活性化を担うのは、観光やシティセールスの部門だけではない。いわゆる観光名所だけではなく、他の地域にない特色を独自の「資源」として捉えて発信していく観点が重要である。図書館や資料館が、地域資源を発掘・活用して地域の活性化に貢献していくことが、連携の拡大、予算の獲得、さらなる事業の展開へとつながる良い循環を生み出していく。



▲選択制講義②